

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-242845
(43)Date of publication of application : 02.09.1994

(51)Int.Cl. G05F 1/56
H02J 7/00

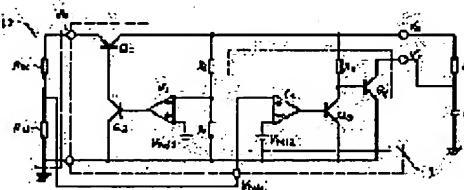
(21)Application number : 05-025174 (71)Applicant : SHARP CORP
(22)Date of filing : 15.02.1993 (72)Inventor : INABA KATSUMI

(54) STABILIZED DC POWER SUPPLY UNIT

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the stabilized DC power supply unit having high reliability, which can set arbitrarily magnitude of a reset detection voltage in accordance with the circuit configuration, and does not cause remarkable deterioration of a characteristic of a battery, even in the case the battery is used as an input power source.

CONSTITUTION: The unit is provided with an external resistance part 10 consisting of plural resistances subjected to outside connection to an input power source part Vin, and a reset signal output part 1 containing a comparator C1 for comparing a divided voltage of the external resistance part concerned with a reference voltage Vref2 and detecting a reset state.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-242845

(43)公開日 平成6年(1994)9月2日

(51)Int.Cl.⁵

G 05 F 1/56
H 02 J 7/00

識別記号 320 C 4237-5H
302 D 9060-5G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全4頁)

(21)出願番号

特願平5-25174

(22)出願日

平成5年(1993)2月15日

(71)出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72)発明者 因幡 克己

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

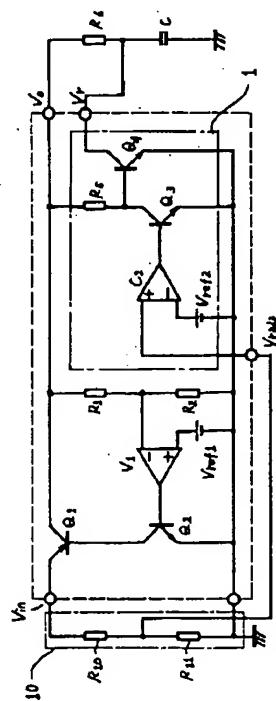
(74)代理人 弁理士 梅田 勝

(54)【発明の名称】 直流安定化電源装置

(57)【要約】

【目的】 リセット検出電圧の大きさを回路構成に応じて任意に設定でき、入力電源として電池を使用した場合でも電池の著しい特性劣化を招くことのない高信頼性の直流安定化電源装置を提供する。

【構成】 入力電源部 V_{in} に対して外部接続される複数の抵抗からなる外付け抵抗部 10 と、該外付け抵抗部の分圧と基準電圧 V_{ref2} とを比較しリセット状態を検出するコンパレータ C_1 を含むリセット信号出力部 1 と、を有してなることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】電池を入力電源とするリセット機能付の直流安定化電源装置において、
入力電源部に対して外部接続される複数の抵抗からなる
外付け抵抗部と、該外付け抵抗部の分圧と基準電圧とを
比較しリセット状態を検出するコンパレータを含むリセッ
ト信号出力部と、を有してなることを特徴とする直流
安定化電源装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、電池を入力電圧とする
リセット機能付きの直流安定化電源装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の技術について図3を参照して説明
する。図3は、従来の直流安定化電源装置の回路図である。

【0003】図3に示すように、従来の直流安定化電源
装置は、出力電圧 V_o を分圧抵抗 R_1, R_2 によって分圧
した電圧及び基準電圧 V_{ref} を誤差増幅器 V_1 に入力
し、両電圧の差を増幅して、その差がなくなるようにト
ランジスタ Q_1 のベース電流をトランジスタ Q_2 により制
御する構成としている。

【0004】また、リセット出力端子 V_r は電源投入
時、リセット信号出力部1の出力トランジスタ Q_4 が抵
抗 R_s を通じてオン状態となるためLOWレベルとな
り、電源投入時からコンパレータ C_1 が動作開始するま
でシステムを初期状態にする。そして、コンパレータ C_1
が動作開始すると、分圧抵抗 R_1, R_2 による分圧と基
準電圧 V_{ref} とを比較しトランジスタ Q_2 をオン状態と
し、 Q_2 をオフさせリセット出力をHIGHレベルにして、
システム起動開始の信号とする。

【0005】そして、抵抗 R_1, R_2 にて分圧された電圧
が V_{ref} より低下するとトランジスタ Q_2 はオフし、再
び抵抗 R_s を通してトランジスタ Q_4 がオン状態となりリ
セット出力をLOWレベルに落とし、システムの誤動作
を防止する。

【0006】なお、 R_s, C はリセット出力用の抵抗及
びコンデンサである。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】ところで、前述した従
来の直流安定化電源装置の回路構成において、入力の電
源が電池である場合、以下のような問題があった。一般
に電池には、それ以下の電圧になると急激に特性が劣化
する放電終止電圧がある。従って、入力電源としての電
池が放電終止電圧を割るような場合には回路にリセット
がかかることが望ましい。

【0008】ところが、実際は、例えば1セル当たり
1.2Vのニッカド電池（放電終止電圧は1.0V）を6
ヶ使用した場合、入力電圧 V_{in} が7.2V、放電終止電
圧が6.0Vであるのに対して、リセット検出電圧は出

力電圧 V_o を5.0Vとする時に通常4.75Vと固定的
に設定される。

【0009】つまり、リセットがかかる時の電池の電圧
は、放電終止電圧である6.0Vを割ることになり、過
放電によって電池の寿命が著しく短くなってしまう。

【0010】図4はこの状態を示す、入力電圧-リセッ
ト信号波形図である。立ち上がった入力電圧 V_{in} の電
圧が低下する際、電池放電終止電圧（6V）のa点でリ
セットがかかるのが望ましいが、リセット検出電圧は
4.75Vで固定されているので、実際にリセットがか
かるのはb点となる。

【0011】従って、前述のようにリセット動作に至る
過程で電池は放電終止電圧を割ってしまい、特性が非常
に劣化する。

【0012】そこで、本発明の目的は、リセット検出電
圧の大きさを回路構成に応じて任意に設定でき、入力電
源として電池を使用した場合でも電池の著しい特性劣化
を招くことのない直流安定化電源装置を実現することに
ある。

【0013】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するため
に本発明は、電池を入力電源とするリセット機能付の直
流安定化電源装置において、入力電源部に対して外部接
続される複数の抵抗からなる外付け抵抗部と、該外付け
抵抗部の分圧と基準電圧とを比較しリセット状態を検出
するコンパレータを含むリセット信号出力部と、を有し
てなることを特徴とする。

【0014】

【作用】本発明の直流安定化電源装置は、前述のように
入力電源部に対して外部接続される複数の抵抗からなる
外付け抵抗部と、該外付け抵抗部の分圧と基準電圧とを
比較しリセット状態を検出する構成であるので、リセッ
ト検出の電圧レベルを外付け抵抗部によって任意に設定
できる。つまり、リセット検出の電圧レベルを電池の放
電終止電圧と同一に（あるいは若干高めに）設定でき
る。

【0015】従って、従来は入力電源として電池を使用
する際、リセット検出電圧が電池の放電終止電圧よりも
低いレベルで一定に固定されていたために、リセット動
作に至る過程で電池特性が急激に劣化するという問題が
あったが、本発明によれば、放電終止電圧になった時
（あるいは放電終止電圧に至るまでに）リセットをかけ
ることができるので、上記問題点を解消でき、高信頼性
の直流安定化電源装置を実現できる。

【0016】

【実施例】本発明の一実施例について、図1を参照して
説明する。

【0017】図1は本実施例による直流安定化電源装置
の回路図である。なお、図3に示す従来例と同一機能部
分には同一記号を付している。ここでは、主に図3の従

来例と異なる点について説明する。

【0018】図1に示すように、本実施例による安定化電源回路においては、コンパレータC₁のV_{ref2}との比較電圧の入力端子V_{radj}に、V_{in}-V_{on}間にに対する外付け抵抗部10（抵抗R₁₀及びR₁₁）の分圧を入力している。つまり、リセット検出電圧は、外付け抵抗部10の抵抗R₁₀及び抵抗R₁₁の大きさを変えることによって任意に調整できる。

【0019】従って、入力電源として電池を使用する場合に、リセット検出電圧を電池の放電終止電圧と同一に（あるいは放電終止電圧よりも若干高く）設定することにより、放電終止電圧になった時（あるいは放電終止電圧に至るまでに）リセットをかけることができるので、電池の入力電圧が放電終止電圧よりも低下することを避けられ、従来のように電池の入力電圧が放電終止電圧を割って電池特性が急激に劣化するといった事態を防止できる。

【0020】図2は、この状態を示す入力電圧-リセット信号波形図である。図2に示すように、立ち上った入力電圧V_{in}の電圧が低下する際、電池放電終止電圧（6V）のa点でリセットがかかるので、従来のようにリセット時において電池電圧が放電終止電圧を割 *

*り、電池の特性劣化が生じるという事ではなく、高信頼性の安定化電源回路を実現できる。

【0021】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、入力電源として電池を使用する際、リセット検出電圧が電池の放電終止電圧よりも低いために、リセット時に電池特性が急激に劣化するということのない高信頼性の安定化電源回路を実現できる。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明の一実施例による直流安定化電源装置の回路図である。

【図2】図1の回路における入力電圧-リセット信号波形図である。

【図3】従来例による直流安定化電源装置の回路図である。

【図4】図3の回路における入力電圧-リセット信号波形図である。

【符号の説明】

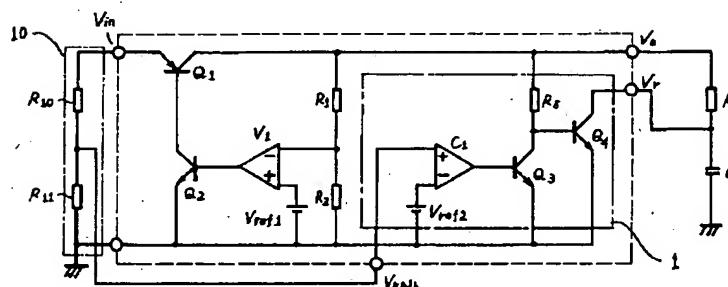
1 リセット信号出力部

10 外付け抵抗部

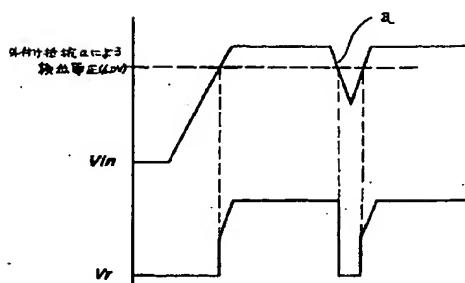
V_{in} 入力電源部

C₁ コンパレータ

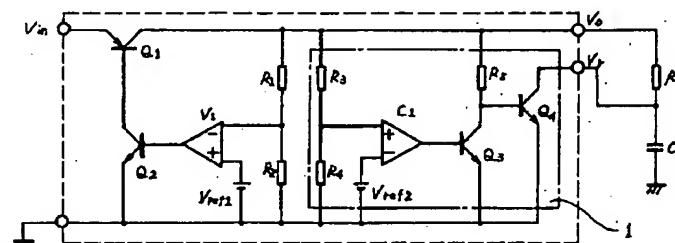
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

